

イトヨ太平洋型（陸封型）

Gasterosteus aculeatus subsp. 1
トゲウオ目・トゲウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類 【環境省カテゴリー】絶滅のおそれのある地域個体群

選定理由

本種は現在では大野市の本願清水とその周辺の水域にしか生息していない種である。湧水という特殊な環境でしか生息できないため、生息域が極度に分断され、また極めて限定されていることから選定した。

種の特徴

全長7cm。体は細長く、背びれの棘はおおむね3本である。県内では水温15°C前後の湧水池とその流水路にすむ。産卵期は5～10月で、砂泥底のくぼみに雄が水草や繊維を集めて巣を作り、そこへ雌が産卵する。雄がなわばりをもち巣や仔稚魚を保護する。

分布

国内における分布地は、福島県の会津、栃木県の那須、福井県の大野に限られる。大野市では本願清水とその周辺の水域に分布は限られる。

生息を脅かす要因

生息地の大野市では、伏流水の減少や地下水汲上げ量の増加により地下水位が低下し、本願清水の湧水量が減少している。かつてイトヨが生息していた湧水池の多くが埋め立てられたため、生息地が極めて限定されてしまっていることも今後の個体群の存続に影響を与えると考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2015）、福井県編（2002）、大野市教育委員会（1973）、大野市教育委員会（1998）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

トミヨ属淡水型

Pungitius sp. 1
トゲウオ目・トゲウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類 【環境省カテゴリー】絶滅のおそれのある地域個体群

選定理由

本種は湧水を水源とする越前市の治佐川水域にしか生息していない。湧水という特殊な環境でしか生息できないため、生息域が極度に分断され、また極めて限定されていることから選定した。

種の特徴

全長5cm。本種は背部に8～10本の棘を持つ。県内では水温15°C前後の湧水池とその流水路にすむ。産卵期は3～7月で、水草の茎に、雄が水草や繊維を集めて巣を作り、そこへ雌が産卵する。雄がなわばりを持ち、巣や仔稚魚を保護する。

分布

北海道、本州の太平洋側では青森県、日本海側では青森県から福井県まで分布する。本県では越前市の治佐川の一区域と鯖江市内のかつての生息地で保護を受け、生息している。

生息を脅かす要因

地下への伏流水の減少や地下水汲上げ量の増加による地下水位の低下により生息地の湧水量が減少したこと、また生息していた湧水池の多くが埋め立てられたこと等により激減した。現在は保護を受けて存続している状態であり、今後の個体群の存続が危惧される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2015）、福井県編（2002）、加藤（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												○		○			

スナヤツメ南方種

Lethenteron sp. S
ヤツメウナギ目・ヤツメウナギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類 【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内の一部の河川の、ごく限定された場所でのみ確認され、個体群がかなり小さい状況にある。河川改修により主要な生息場が極度に減少している。

分布

本州、四国及び九州北部に分布する。本県では、主要河川の上・中流域、湧水池に分布したが、現在では九頭竜川水系、笙の川、北川、南川、佐分利川等に僅かに生息する。

生息を脅かす要因

近年の河川開発にともなう流路の直線化による河床構造の単純化によって、幼生の成育場の喪失、土砂の流出にともなう産卵床の環境悪化によって、個体数が減少している。森林伐採による河川水温の上昇や渇水、水質汚濁等による生息環境の悪化がいちじるしい。

参考文献 環境省編（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○